

京都市農林行政基本方針  
検討委員会

第4回摘録

平成22年3月2日

日 時	平成22年3月2日（火曜日） 開会 午後1時30分 閉会 午後4時30分
場 所	京都市花き地方卸売市場 大会議室
出席者	【委員】宮崎 猛〈委員長〉, 岩井 吉彌〈副委員長〉, 青合 幹夫, 青山 裕司, 乾 清絵, 内田 昌一, 大住 あづさ, 大谷 貴美子, 川勝 正彦, 中川 典子, 中山 直子, 福田 淳, 松尾 義平, 松下 正徳, 中村 安良, 森井 保光, 山内 俊子, 山本 玉幸, 渡辺 民
代理出席	(田辺 真人委員の代理者), (平田 茂オブザーバー委員の代理者)
欠席者	大島 仁, 久保 敏隆, 山岡 茂和, 田中 良泰 (オブザーバー委員)

司会	(定刻により, 第4回京都市農林行政基本方針検討委員会の開 会を宣言)
事務局	○ 第3回検討委員会における意見の確認(摘録確認) ○ 素案説明
委員長	○ 活発な議論をお願いしたい。 ○ 素案4ページまでの部分で意見をお願いします。
委員Z	○ 素案にあるような目標を達成できるのか。大変不安をもって いる。 ○ 32年間市会議員としてやってきたが財源の確保が必要で ある。 ○ 生産緑地, 都市農業を行政としてどのようにやっていくつも りか。 ○ 絵に描いた餅にならないようにすべきである。
委員G	○ 行政の立場でZ委員の質問にお答えする。素案にあるように 農林業としてやるべきたくさん項目がある。どのようにし て取組んでいくのか。実現していくのか。すべてが実現する

(委員G)	<p>とは思わないが、行政として実現するための財源を確保するために国、府に提言や働きがけをしていく必要がある。それらを今後進めていくためにこの基本方針を作成している。</p> <p>○ 市街化区域における生産緑地を残していくという努力も今後必要だと思う。</p>
委員Z	<p>○ 本当に農林業は、育成されてきたのか。行政は、財源を確保し政策を実現してきたか。環境を守り農家が働く意欲の持てる政策を行政はしてきていない。</p>
委員U	<p>○ 基本方針は、このまま農林業をほっとくと衰退してしまうため、それらを歯止めするためのものである。</p> <p>○ 京都市だけでなく国、世界の農林業がどうあるべきか。もっとグローバルに物事を見る必要がある。</p>
委員長	<p>○ 積極的な攻めの農林業の視点が必要である。</p> <p>○ 素案3ページの「10年後の姿」にそれらが集約されてくる。</p>
副委員長	<p>○ 素案5ページに記載してあるような「経営の安定」「経営の意欲」を確保できるかどうか。</p> <p>○ 林業の場合、今後間伐を行い山全体を切ってしまった時、はたして再植林をして森を維持できるかどうか。できなければ山は、裸になってしまう。森林の再生産は重要である。</p> <p>○ 魅力ある林業経営を維持するには、グローバルな視点で考え、京都独自の経営方式を打ち出す必要がある。たとえば、3～4年単位でプロジェクトを作って政策を打ち出していく。</p>
委員X	<p>○ 素案3ページの「10年後の姿」の農業の部分に記載の「暮らせる収入確保」という表現を「儲かる収入確保」のようなものにできないか。</p>
委員長	<p>○ 4ページの柱立て中にある「農林業」という表現では、従来の農業政策の範囲内に限定されるような感がある。移住の促進、総合対策での中山間対策、農山村対策といった意味合いを含めるためにも、「地域づくり」、「農村政策」のような表現を特に3と2の後半に入れてみてはどうか。</p>

<p>委員長</p>	<p>【4ページまでの意見のまとめ】  (3ページ「10年後の姿」の部分に関して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ グローバルな視点を入れ込む。  (具体的には, 1つは物流の面でのグローバル化。もう1つは農林業従事者のグローバルな視野の育成。)</li> <li>○ 「農業で暮らせる収入の確保」の部分により積極的な表現に変えるべき。</li> <li>○ 林業の部分に, 「持続的な林業収益の拡大」の追加をして欲しい。</li> <li>○ 素案25, 26ページのグラフで見る京都市の農林業のデータのポイントの部分について, 「この10年間の環境の変化・課題」の中で触れる。</li> </ul> <p>(4ページに関して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農村地域対策として, 「地域づくり」「農村政策」のような表現を入れてみてはどうか。</li> </ul>
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 続いて, 素案5ページについてお願いしたい。</li> <li>○ 新しい農業展開のアイデアを出していただけたらありがたい。</li> </ul>
<p>委員C</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境保全型農業実践のところで文言として「有機農業」を入れてほしい。</li> </ul>
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 環境保全型農業の中に有機農業が入っている。</li> <li>○ 有機農業は, 価格が高いがハードルも高く1%しか普及していない。</li> <li>○ 文言を入れるかどうか事務局で判断をしてほしい。</li> </ul>
<p>委員U</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 収入の安定を考えた場合, ある農協の職員が言っていたが, 直売所で曲がったきゅうりや規格外のものを安く販売していると全体の市場価格が下がり農家の収入が結局減ってしまうことになる。このようなことも考える必要がある。</li> </ul>
<p>委員長</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都市型農業の振興は納税猶予など税対策が重要。首都圏や福岡では体験型農業が広まっている。</li> </ul>
<p>委員Y</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 5ページの林業労働者の制度についての表現が分かりにく</li> </ul>

(委員 Y)	い。
事務局	○ 技術研修の制度を充実させる意味で書いています。分かりやすくします。
委員 Y	○ 担い手対策については、市だけでなく府とも連携をしてやっていくと言う表現も入れてはどうか。
事務局	○ 林業作業は危険である。林業労働者研修については、最低 1 年、3 年ぐらいは色々な事を研修してもらえば良い。 ○ 府市で連携し、二重行政にならないようにしたい。
委員 N	○ 北山杉のブランドを推進していきたい。 ○ 北山杉の販路の拡大については、もう少し踏み込んで書いてもらいたい。 ○ また、北山杉を販売する人など新規就労者に対する支援も盛り込んでいただきたい。
委員 Q	○ 森林のグリーンワーカーなど若手に資格を取らせることも必要である。 ○ 森林組合の下請けでは、食べていけない。 ○ 森林整備班の育成については、森林組合の文言を削除してもらいたい。
委員 Z	○ 生産緑地と農業振興地域制度の活用による生産基盤の整備とは。制度が違う中でどうするのか。
事務局	○ 生産緑地や農業振興地域においても生産基盤の整備を行っていく、ということです。
委員 Z	○ 市のみでは予算が少ない。府と連携をとって欲しい。
事務局	○ 土地改良区、農協、京都府、国と一体となってやっていきたい。また、京都府や国に対しては、必要に応じて要望を上げていきたい。
委員 X	○ 中核的な農家への支援策として、研修会の開催だけでなく、資金面での支援も含めて欲しい。また、本項目を重点取組内

(委員 X)	容とするべきでは。
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 林業と農業の統合を考えてはどうか。米作農家の労働力を林業へ。ヨーロッパは、農業と林業を同時にしている。</li> <li>○ 例えば国の所得補償のようなものでサポートする京都方式のような政策を検討してはどうか。</li> </ul>
委員長	<p>【5ページの意見のまとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「環境保全型農業」という表現と一緒に「有機農業」という表現を入れられるかどうか検討する。</li> <li>○ 「中核的な農林業経営者を対象とした経営力向上の研修会開催」を「中核的な農林業経営者を対象とした経営向上対策の実施」に言い換え、出来れば重点取組内容にする。</li> <li>○ 森林整備班養成の部分における「森林組合」を削除する。</li> <li>○ 「技術研修制度」を「技術研修制度充実」に表現を変える。</li> <li>○ 京都型農林複合経営方式の検討プロジェクトの実施を追加してはどうか。</li> <li>○ 卸売市場流通の促進策を入れてはどうか。</li> <li>○ 農林業の新規就業者支援策の検討を入れられないか。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 続いて、素案6、7ページについて御意見をお願いします。</li> <li>○ 特に、具体的な内容についてのアイデアをお願いします。</li> </ul>
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 桂高校では、伝統野菜のプロジェクトを実施しており、種子を守っている農家を回って話を聞いている。</li> <li>○ 京野菜の種を守ることが大事である。その中で京野菜のブランド化に力を入れていく必要がある。</li> </ul>
委員 R	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地産地消の推進であるが、これからは、外消も考えるべきである。特に、6次産業化では、加工品のレベルを上げていかなければならない。</li> <li>○ 「地産地消」ではなく「地産外商」の視点が必要なのでは。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 最近は商業の「商」の字を使った「地産地商」という言葉もある。</li> </ul>
委員 X	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市内の農家は、亀岡など市外の農地でも農産物を作っているので表現を変えたほうが良い。例えば市内農家産など。</li> </ul>

副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 以前、竹の研究していたが、青竹は京料理、京菓子に使われていた。徳島県には、つまもの類で1,000万円を稼いでいる農家がいる。その点京都は、料亭も多くつまもの類の生産は有利である。</li> </ul>
委員U	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 地産地消の「消」は、商売の「商」に変えてほしい。</li> <li>○ 地域を活性化するには、京都市がいくら一生懸命やっても地元がその気にならないとだめ。</li> </ul>
委員N	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「農林業と他産業の連携」で「農林業と食品産業（業界）との連携」を入れてもらいたい。かまぼこの板、そうめん類の木箱利用などで杉を使うことができる。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 企業の参入に関しては、まず地元がまとまり、その上で行政が地元と企業のマッチングをするような方式や具体的中身を進めて欲しい。</li> <li>○ 大原のような、地域の世話人と新規参入した世話人の2種類の世話人を地域に作り、活躍してもらう仕組み作りが必要。</li> <li>○ いきなり農業をしようとしても、資金・技術面・住居面で現実的には難しいので、行政・農委レベルと民間（NPOレベル）との連携を図り、田舎で働きたい希望者が働けるようなネットワーク化が必要。</li> </ul>
委員長	<p>【6, 7ページの意見のまとめ】</p> <p>(6ページに関して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「農林業と観光産業との連携」の部分に「食品産業との連携」も入れる。〈具体的な内容〉にも何か入れ込むことができれば事務局で検討して入れる。</li> </ul> <p>(7ページに関して)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 「地産地消」を「地産地商」に変えた方がより中身が充実する。</li> <li>○ 「種からの京野菜」の考え方が素案に入るか検討して欲しい。入る場合の表現は事務局で検討。</li> <li>○ いきなり農業をしようとしても、資金・技術面・住居面で現実的には難しいので、行政・農委レベルと民間（NPOレベル）との連携を図り、田舎で働きたい希望者が働けるようなネット</li> </ul>

(委員長)	<p>トワーク化が必要。</p> <p>(10分休憩)</p>
委員長	<p>○ 再開します。8ページから10ページについて、御意見よろしくをお願いします。</p>
委員Q	<p>○ 10ページの市民との共汗で築く農林業について、サポーター活動への支援も確かに大切だが、サポーターを指導する人の育成に援助をしてほしい。</p>
委員Z	<p>○ 学校教育では四季の作物を教えていない。春には春の作物、夏には夏の作物を学校教育で四季と作物を教えることが必要である。</p> <p>○ 体験農園は農家主体で行うものであり、広めていくには行政を中心とした啓発が必要である。</p> <p>○ 農林業の持つ多面的機能を生かした地域づくり・人づくりについて、大原や越畑における取組はあくまでモデルであり、他の中山間の地域へも取り組みを広げることが重要である。</p>
委員R	<p>○ 学校教育との連携のところに「食文化」という文言を入れて欲しい。日本本来の食文化を見直す記述を入れて欲しい。学校給食での食器も含めた日本食文化の取り入れを望む。</p>
委員F	<p>○ R委員の意見に関連して、伝統文化・食文化を継承する意味で、季節や祭りなど節目に何を食するのか等も伝えたい。</p> <p>○ 9ページの「農林業にかかわる伝統文化の継承」を「伝統・食文化の継承」に変えてはどうか。</p>
委員J	<p>○ 10ページのモデルフォレスト関連では色々入っているが、10年先をみた場合は、もう少し広がりをもって記述してほしい。</p>
委員Y	<p>○ 本来のモデルフォレストは循環運動ができることであり、京都市としてモデルとしてしっかりやってほしい。ウディーでも出来ると思うが、木材需要が消費者までつなげる運動を願いたい。</p>



委員 N	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8 ページの環境を創造する農林業の推進と重なるかもしれないが、ウッドマイレージの文言をどこかに入れて欲しい。</li> <li>○ 市民との共汗で築く農林業のところに情報提供の拠点整備という観点を加えて欲しい。そうすることによって市民に農林業に親しみを持ってもらいたいと思う。</li> <li>○ 農家の X さんや C さんのお話を聞くと農業と林業に共通する部分がとても多いと感じる。今回の委員会に参加させていただいて、大変勉強になった。</li> </ul>
委員 D	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 10 ページの学校教育との連携の部分に「食の大切さ」を入れて欲しい。子供たちに食べることの大切さ、生きることの大切さを伝えたい。</li> </ul>
委員 L	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 伝統文化の森におけるサポーターの活動支援の部分の表現を「伝統文化の森推進協議会による国有林での森林再生に向けた活動への支援」という表現にして欲しい。</li> </ul>
委員 C	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 8 ページに記述の「旬野菜」は、本当に環境に負荷を与えないのか疑問である。</li> <li>○ 表現を『「京の旬野菜」や環境保全型農業など環境に負荷をかけない…』にして欲しい。</li> </ul>
委員 W	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業小学校制度の検討の記述を積極的な意味で「農業小学校制度の推進」にしたほうがいいのでは。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 検討した結果「推進」となるものなので、今のところは「検討・推進」ぐらいの表現でどうか。</li> </ul>
委員 A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 市内に唯一の農林業学科がある桂・北桑田高校の両校の活用も今後考えて欲しい。子供達に教えるのに高校生の活用を考えていただきたい。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 京都府が「ふるさと共援活動支援事業」を展開している。農山村の再生に向けた活動で大学と地元が一体となっている。桂・北桑田高校の2つの学校が、市内の森・農地を助ける仕組みづくりを、行政が仲介して行うことを検討してもよいのではないか。</li> </ul>

副委員長	○ 学校教育との連携の中に林の部分が少ない。もっと林・森に触れる学校教育が必要。スイス、オーストリアなどでは、小学校から木工教室が充実しており、このため必然と木の名前や自然環境を知ることになる。
事務局	○ 農家の現場サイドから聞いた話しであるが、昨年、広河原で小学生数名が農家に宿泊して、山菜採り、わら細工、野菜の収穫に風呂炊きなどを行って農山村の暮らしに触れた。教育委員会では、こういった取組を充実するように聞いている。
委員 K	○ 花と緑の市民フェアは消費宣伝を目的に開催している。 ○ 市内での生産は、大きく切り花と花苗生産に分かれるが、切り花は減少している。 ○ 遊休農地を活用するなどして景観作物栽培として花木などの推進してほしい。毎年すべて切るわけでもないで花も楽しめるため、生産と観光の両面の振興に繋がる。
委員長	<p>【8～10ページの意見のまとめ】 (8ページに関して)</p> <p>○ 『「京の旬野菜」など環境に負荷をかけない…』を『「京の旬野菜」や環境保全型農業など環境に負荷をかけない…』という表現に変えられるか検討する。</p> <p>(9ページに関して)</p> <p>○ 「農林業にかかわる伝統文化の継承」を「農林業にかかわる伝統文化・食文化の継承」に変える。 ○ 「耕作放棄地の再生支援」を「耕作放棄地の再生支援と体験農園の啓発活動」という表現に変える。</p> <p>(10ページに関して)</p> <p>○ 「市民への農林業情報の提供」という部分と一体化して、「市民に情報を発信する拠点の構築」という表現にできるか検討する。 ○ 伝統文化の森におけるサポーターの活動支援の部分の表現を「伝統文化の森推進協議会による国有林での森林再生に向けた活動への支援」という表現に変える。 ○ 京北、大原のような加工直売施設のあるところでは、木材の循環利用につながるような実験的施策を検討してほしい。</p>

(委員長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業小学校制度の検討の記述を積極的な意味で「農業小学校制度の検討・推進」にする。</li> <li>○ 学校教育との連携の部分に食文化の視点を入れて欲しい。</li> <li>○ 食べる大切さ，生きる大切さを教えるような学校教育との連携の仕方を考えて欲しい。</li> <li>○ 林業・山村関係について，教育との連携を入れられないか検討する。</li> </ul>
委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 11ページから16ページにかけて，御意見・御質問をお願いします。</li> <li>○ 途中退席される方は，この際御自由に意見を言ってください。</li> </ul>
委員 Z	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 都市的農業地域について，農家は特に自分の良い技術は外に出したがるものである。こうした中で，行政には，優れた技術は後世に伝承されるように取組をお願いします。</li> </ul>
委員 N	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 林業にも近郊林業地域のところで近郊都市的林業地域の文言を入れてほしい。市街地の中でも林業は生かされている。</li> </ul>
委員 M	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 農業における中山間農業地域が，新規就農者や担い手の定住の場とされている意図は何か教えて頂きたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中山間地域において比較的耕作放棄地が多く，定住条件が揃っていると考えられることから記載したものです。他の地域でも条件が揃えばもちろん定住促進を行うことになります。</li> </ul>
委員 Y	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 14ページの「山菜，チマキザサの保護・復活」をさせるには，鹿等の野生鳥獣の駆除が必要ではないか。笹を保全するには，駆除の必要がある。</li> <li>○ チマキザサを言うなら9ページの部分にも入れないと整合性がとれないのでは。</li> </ul>
副委員長	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 欧米人は，その国の人々がどのような生活をしているのか，その生業に関心を持っている。欧米人は，バリ島の奥地にある棚田を見に行ったりしている。それに対して，日本人は，買い物を中心になる。</li> <li>○ 京都でも観光業とタイアップすれば外国人を対象に農山村</li> </ul>

(副委員長)	地帯のツアーが組めるのではないか。
委員 C	○ 作った物が売れる施設を持つことがビジネスチャンスを広げることになる。市街化周辺農業地域の方針の中に「売り場や直売所の設置推進」などを入れてほしい。
委員長	<p>【11～16ページの意見のまとめ】</p> <p>(11ページに関して)</p> <p>○ 「京野菜の伝統技術継承への支援策」を積極的な意味で入れて欲しい。</p> <p>○ 研修の場だけでなく、栽培した農産物の販売・マーケティング、売場の整備などの視点も検討して欲しい。</p> <p>(12ページに関して)</p> <p>○ 外国人を対象にしたモデルグリーンツーリズムツアー実施の検討ができないか検討する。また、11ページの市街化周辺農業地域、14ページの北部林業地域の部分にも同様の内容が盛り込めないか検討する。</p> <p>(15ページに関して)</p> <p>○ 見出しの「近郊林業地域」を「近郊・都市的林業地域」にならないか検討する。</p>
委員長	○ 会場の借り上げ時間の都合上、17ページ以降一括で御審議をお願いしたい。
委員 L	○ 25、26ページのグラフで見る京都市の農林業のデータのポイントの部分について、3ページの「この10年間の環境の変化・課題」の中で触れた方が良いのでは。
委員 W	○ グラフの文字が分かりにくいので工夫して欲しい。
委員 X	○ 17ページの野菜技術について、今後農業者の高齢化も踏まえ、「機械化による野菜栽培の確立」といった文言を入れて欲しい。
副委員長	○ 最後の地図は見ていておもしろい。品目と地域の整合性をとっていただきたい。

事務局	<p>○ これは、従来のものですので、また整理して作り直します。</p>
委員長	<p>【17～27ページの意見のまとめ】 （17ページに関して）</p> <p>○ 野菜の部分について、「機械化技術の推進による省力的な野菜生産技術の確立」という意味合いの文言を入れられるかどうか検討する。</p> <p>（23～26ページのグラフ全般に関して）</p> <p>○ 数字を見やすく工夫する。</p> <p>（27ページに関して）</p> <p>○ 地図を見やすく工夫する。</p>
委員長	<p>【委員会閉会あいさつ】</p> <p>○ 以上の本日の会議で出された意見については、事務局で整理をしてもらいます。</p> <p>○ 最終的には、私と副委員長で相談をしながらパブリックコメントを受けるための素案にまとめ上げていきますので、その点について一任願いたく思います。</p> <p>（全委員 異議なし）</p> <p>○ 委員のみなさまにおかれましては、最後まで様々な参考意見と、熱心な御議論を頂きまして本当にありがとうございました。</p> <p>○ 本案が成案となった後には、京都市らしい農林業と農山村地域の振興が図られますことを期待して、委員長の席を降りさせていただきます。</p> <p style="text-align: right;">（以上）</p>